

# こころをひらき 未来をひらく

＜家庭、地域、学校が一体となって、  
子どもたちの未来を育もう＞

## 自分を理解することは難しいけれど

本校が目指すキャリア教育の視点「未来をひらく四つの力」の一つ目に、「自分を理解する力」があります。具体的には次の三点です。

- ◇ 自分の役割を果たす
- ◇ 自分の長所や短所がわかる
- ◇ 苦手なことでも取り組む



この三つは大人には簡単そうですが、子どもにとっては案外、難しいことだと思います。子どもなので当たり前、と言ってしまえば当たり前。しかし、少しでもそんな子どもに近づいてくれるといいなあと、期待を寄せるのが私たち大人です。

ご存じの通り、小学校では来年から教育課程が変わります。大きく変わるのは、3年生以上の週時間が増えること。道徳はすでに昨年度から変わっているのですが、それは「道徳の教科化」（特別の教科 道徳）です。これまでも学校の学習内容として「道徳の時間」がありましたが、「道徳の教科化」は「道徳の時間」の格上げとも言えるかもしれません。ではどうして、道徳が教科化されたのでしょうか。

それは、今の社会が、道徳の充実に期待を寄せる状況にあるからです。

具体的には、① 「いじめ」「暴力」等による人権無視の実態

- ② 社会人になりきれていない成人の存在
- ③ 将来に夢を持たない若者の増加
- ④ 人間関係の希薄さによる弊害 等々、様々です。

②や③はキャリア教育そのものです。①、④についてはどうでしょうか。

道徳の時間は、まさに自分との対話です。その自分を取り囲むものが、対相手だったり、対社会だったりとさまざまに変化しても、最終的には自分自身を考える時間です。

◇自分はこんな考えをもっていたのか？      ◇自分はこんなところが弱かったのかあ。

◇あの人はこう考えたけれど、自分ならこうだなあ！

◇まだ無理かもしれないけれど、あのようになりたいなあ。

◇あこがれるなあ。      ◇ひょっとしたら、自分にもできるかもしれないぞ。

道徳の時間には、学級のたくさんの友達と議論し、対話をしながら自分を見つめていきます。まさに、自分探しの旅に出る時間でもあります。自分の弱さに気づいてがっかりしたり、過去の自分を後悔したりと、決して、楽しい時間にはならないこともあるでしょう。しかし、自分を理解すること、認知することは、よりよい社会人となるためには、どうしても必要な経験です。

保護者の皆さんは、道徳の時間についてどのような印象をもっていますか。また、道徳の時間についての思い出はありますか。

文責 校長：菅原